

事業報告 信楽青年寮作品調査について Vol.2

星野 志穂・田平 麻子・古沢 ゆりあ

1. はじめに

滋賀県立近代美術館は、2017年11月より信楽青年寮の作品調査に着手し、現在までに述べ9回の調査を行っている。2018年10月までに行った計5回の調査内容の詳細については、昨年度の紀要を参照されたい⁽¹⁾。本稿では、2019年2月から11月の間に行った計4回の調査について報告する。

2. 信楽青年寮について

信楽青年寮は、戦後まもなく糸賀一雄と田村一二らとともに近江学園を創設した池田太郎が1952年（昭和27年）に設立した信楽寮を前身とする入所型の福祉施設である。信楽の地場産業である焼物を中心に職業訓練を主とする生産教育を行い、1955年には成人となった利用者の生活施設として現在の信楽青年寮が開設された。地域への就労支援とともに利用者ひとりひとりの特性に合わせた多様な日中活動の場を設けており、造形物研究班と陶器班では絵画や陶芸の造形活動が行なわれている。造形活動のなかで生まれた作品は、当館の「生命の徴—滋賀と「アール・ブリュット」」展（2015年）など国内外の様々な展覧会への出展をはじめ⁽²⁾、社会福祉法人しがらき会として独自に企画開催している国際交流展「しがらきから吹いてくる風」（2011年～）や⁽³⁾、成安造形大学との共同プロジェクト（2018年）など⁽⁴⁾、活発な取り組みを通して広く紹介されている。近年では当館の子ども向けワークショップ「たいけんびじゅつかん」を共催し、「陶芸でキャンドルカバーをつくろう！」（2018年）、「陶板レリーフをつくろう！」（2019年）を信楽青年寮の工房にて行った。陶器班のメンバーも参加され、ワークショップ参加者たちとの交流も見られた。

3. 調査状況

以下これまでの調査の状況を記述する。

2019年2月4日（月）

○調査内容

- ・木野良和作品（衣装ケース入など）整理 130点
- ・木野良和作品調査撮影 6点

前回整理番号が確認できなかった作品は未調査と判断し、新たに番号を付し撮影も行った。薄葉紙を半分に切り、さらに半分に折ったものに作品を1点ずつ挟み、重ねていき、撮影番号を記入したインデックスシールを薄葉紙に貼付し、衣装ケースに収めた。額装作品やパネル様のものは額裏やパネル裏面など作品に影響を及ぼさない場所にインデックスシールを添付、面合わせになるところには薄葉紙を挟んだ。また作品整理と同時に画材の再確認を行った。クレパスと色鉛筆の中間的な筆触はダーマトグラフが多そうである。マーカー・サインペン・フェルトペンなど表記統一するか、データ整理時に検討する。

2019年6月11日（火）

○調査内容

- ・木野良和作品（衣装ケース入など）整理 31点（ボードに描かれた作品などでラベル未添付のもの6点あり）
- ・松本孝夫作品調査撮影 68点（同時に整理も完了）
- ・松本孝夫記録写真アルバムの写真を接写 82点

木野作品については、持参した薄葉紙を半分に切り、さらに半分に折ったものに作品を1点ずつ挟み、重ねていき、撮影番号を記入したインデックスシールを薄葉紙に貼付し、衣装ケースに収めた。額装作品やパネル様のもは額裏やパネル裏面など作品に影響を及ぼさない場所にインデックスシールを添付、面合わせになるところには薄葉紙を挟んだ。ボードに描かれた作品で展示中のものなどラベル未添付の作品が6点あるが、数が少なく照合しやすいため、しばらくは未添付のままとする（確認がとれた段階で添付する）。

松本作品については、調査と並行して整理を行った。作品サイズが小さいため、薄葉紙の半切をさらに半分に切り、またさらに半分に折ったものに作品を1点ずつ挟み、撮影番号を記入したインデックスシールを薄葉紙に貼付した。

2019年8月27日（火）

○調査内容

- ・松本孝夫作品調査撮影 126点（同時に整理も完了）

調査と並行して整理を行った。両面に描かれたものがほとんどであった。作品サイズが小さいため、薄葉紙の半切をさらに半分に切り、またさらに半分に折ったものに作品を1点ずつ挟み、撮影番号を記入したインデックスシールを薄葉紙に貼付した。

2019年11月18日（月）

○調査内容

- ・松本孝夫作品調査撮影 98点（同時に整理も完了）

調査と並行して整理を行った。両面に描かれたものがほとんどであった。作品サイズが小さいため、薄葉紙の半切りをさらに半分に切り、それを半分に折って挟むのに使用した。撮影番号を記入して薄葉紙に貼付するシールは前回までインデックスシールだったが今回からタックタイトルシールを使用した。また両面作品を撮影する際、前回まで「裏」の札を使っていたが、表裏の判断ができない作品も多いため今回から1と2の付属番号を付することにした。素材について、濃い筆圧の色鉛筆、クレヨン、クレパス（オイルパステル）の違いが分かり難い。

4. 今後の展望

継続的に作品調査を行うことで、信楽青年寮の豊富な作品群の全体像を掴み、把握し、今後の研究へと繋げていきたい。課題としては、調査頻度や人員の増加が難しいため、今後は施設側とも相談して調査方法をブラッシュアップしながら、丁寧かつ効率的に調査を進めていく必要がある。また、最終的には調査内容をデータベース化することで施設側に調査の成果を還元したいと考えている。

【資料 1】**木野 良和 プロフィール**

1959年(昭和34年)滋賀県に生まれ、信楽青年寮に1985年に入寮する。牧場班に所属するが、絵を描いていることが多く、2012年から造形物研究所班に異動。主に紙にオイルバーやダーマトグラフ、ボールペンなどを用いて作品を制作している。

「第16回滋賀県施設・学校合同企画展 ing... ～障害のある人の進行形～」(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、2019年)、「第9回 障害のある人による公募作品展 ぴかつ to アート展～それぞれのカタチ～」(イオンモール草津イオンホール、2019年)、「第73回滋賀県美術展覧会」(滋賀県立文化産業交流会館、2019年)などに出演。

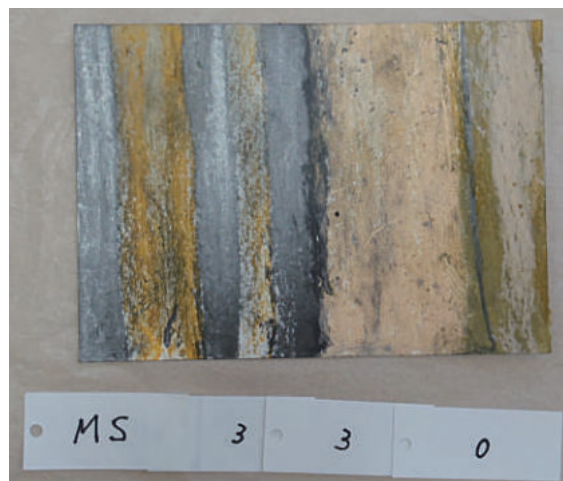


木野良和《無題 2018》2018年
鉛筆、色鉛筆、ボールペン・木製パネル
116.0 × 91.5cm (額寸 119.0 × 92.8cm)
(調査番号：MS307)

【資料 2】**松本 孝夫 プロフィール**

1950年(昭和25年)大阪府に生まれ、信楽青年寮に1985年に入寮する。当初陶器班に所属し、粘土をひも状にした作品、2000年頃よりゴミ袋に衣類などを詰めたオブジェ的な作品などを制作。その後牧場班を経て2003年に造形物研究所班に所属し本格的に絵画制作に取り組む。2018年よりオブジェに絵画を入れ込んだ作品を制作し始める。

「極上スタイル」(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、2005年)、「第11回滋賀県施設・合同企画展 ing... ～障害のある人の進行形～」(ボーダレス・アートミュージアム NO-MA、2014年)、「第9回 障害のある人による公募作品展 ぴかつ to アート展～それぞれのカタチ～」(イオンモール草津イオンホール、2019年)、「アール・ブリュットー日本人と自然一」(びわ湖大津プリンスホテルコンベンションホール淡海8・9、2020年)などに出演。



松本孝夫 題名、制作年不詳
クレヨン・紙 13.3 × 19.0cm
(調査番号：MS330)

【資料3】 調査実施例 MS305～310 : 2019年2月4日(月) MS311～335 : 2019年6月11日(火)

調査 (撮影) 番号	作者名	作品名	素材等	寸法 (縦横奥行, cm)	額・付属物	制作年	出展	備考
MS305	木野良和	無題	クレヨン、ダーマート、 ボールペン、色鉛筆、紙	25.6×39.0	無	不詳		両面
MS306	木野良和	無題	ダーマート、色鉛筆、 鉛筆、紙	38.0×54.0	無	不詳		
MS307	木野良和	無題 2018	鉛筆(2H, HB)、ボールペ ン、色鉛筆、木製パネル	116.0×91.5 (額寸119.0× 92.8)	額有、アク リル無	2018.9 (裏書)	第72回滋賀県 美術展覧会 (2018年)	
MS308	木野良和	無題	ダーマート、色鉛筆、 鉛筆、木製パネル (白の下塗り)	91.3×72.6	無	不詳		
MS309	木野良和	無題	ダーマート、鉛筆、木製パ ネル(白の下塗り)	91.3×72.6	無	2018.11 (裏書)		KINO 2018.11 (裏書)
MS310	木野良和	無題	オイルバー、ダーマート、 色鉛筆、クレヨン、 コンテ、木製パネル (白の下塗り)	91.0×91.0	金具、 吊り紐	2018	ぴかつtoア ート展(2018)	2018木野 (裏書)
MS311	木野良和	無題	鉛筆、マーカー、色鉛筆、 紙	210.×30.0	無	不詳		
MS312	木野良和	無題	鉛筆、マーカー、色鉛筆、 紙	27.2×38.0	無	2019(裏書)		
MS313	木野良和	無題	鉛筆、マーカー、色鉛筆、 紙	38.0×54.0	無	2019(裏書)		
MS314	木野良和	無題	オイルバー、木製パネル (白下地)	80.4×72.5×2.5	無	不詳		新作とのこと (2019)
MS315	木野良和	無題	鉛筆、色鉛筆、木製パネル (白下地)	116.0×91.0× 3.5	不詳			
MS316	松本孝夫	無題	色鉛筆、クレヨン、ダー マート、黒マジック、紙	13.6×19.0	不詳			両面
MS317	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.9×19.2	不詳			両面
MS318	松本孝夫	無題	クレヨン、色鉛筆、紙	13.8×18.8	不詳			両面
MS319	松本孝夫	無題	クレヨン(?)、色鉛筆、紙	13.2×19.2	不詳			片面
MS320	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.2×19.0	不詳			両面
MS321	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×19.0	不詳			両面
MS322	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.6×19.0	不詳			片面
MS323	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×18.8	不詳			片面
MS324	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×18.8	不詳			片面
MS325	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.6×19.0	不詳			両面
MS326	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×19.0	不詳			両面
MS327	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.5×19.2	不詳			両面
MS328	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.7×19.0	不詳			両面
MS329	松本孝夫	無題	クレヨン、色鉛筆、紙	13.6×19.0	不詳			両面
MS330	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.3×19.0	不詳			片面
MS331	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×19.2	不詳			両面
MS332	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.6×19.0	不詳			両面
MS333	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.4×19.0	不詳			片面
MS334	松本孝夫	無題	クレヨン(色鉛筆?)、紙	13.4×19.0	不詳			両面
MS335	松本孝夫	無題	クレヨン、紙	13.5×19.0 (長辺)、 13.5×17.6 (短辺)	不詳			変形、 波打ちあり、 両面

-
- (1) 田平麻子・古沢ゆりあ・星野志穂「事業報告 信楽青年寮作品調査について」『滋賀県立近代美術館研究紀要 第10号』滋賀県立近代美術館、2019年、p.13-p.17
 - (2) 『生命の徴—滋賀と「アール・ブリュット」』展、滋賀県立近代美術館、2015年
 - (3) 『しがらきから吹いてくる風～日・台交流展～ 2011～2013』社会福祉法人しがらき会、2013年、『しがらきから吹いてくる風～日本・台湾・タイ交流展～ 2014』社会福祉法人しがらき会、2014年、『2015 しがらきから吹いてくる風—日本・台湾交流展—』社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、2015年、『2016年 しがらきから吹いてくる風展』社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、2016年、『2017年 しがらきから吹いてくる風～日本・台湾交流展～』社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、2017年、『2019 しがらきから吹いてくる風～日本・台湾・ベトナム交流展』社会福祉法人しがらき会信楽青年寮、2019年
 - (4) 『みんなで歩く湖(うみ)、島、お寺展 成安造形大学×信楽青年寮—日本遺産滋賀・びわ湖 フィールドサーヴェイプロジェクト2017の試みより— 記録集』文部科学省・日本学術振興会・科学研究費助成事業(課題番号:16K02256)基礎C、研究題目「アートがつくる新たな支援者関係、その実証的研究」(代表者:三脇康生)、2018年

謝辞

本調査また本稿作成にあたり、木野良和様、松本孝夫様、社会福祉法人しがらき会の方々、特に調査をご担当くださった石野大助様、桶井靖子様にご多大なるご協力を賜りました。末筆ながら記して感謝申し上げます。